

## 栂海新道 山行報告 M浦記

- ◆日時 2023/5/2～5 前夜発
- ◆形態 雪一般
- ◆メンバー L.M浦 H本 S口

昨年、例会後の飲み会でぐっちの隣席になった。ちょうどGW明けの時にGWの山行の話になり、あややは栂海新道敗退！来年も計画するので行きませんか？と誘ったらぐっちからは「おおいしいねえ、行きましょう！」との返事。リップサービスかと思っていたら今年になって、ぐっちから栂海新道の話が出て、覚えてくれてたのねと嬉しくなる。ハッシーを誘って3人での山行が成立した。二人とはあややが入会して一年経つのに山行をともにしたことがないので、まずは栂海新道の山行の前に流石山を顔合わせ山行として計画した。

### ◆4/9 顔合わせの流石山山行

○ルート 5.55＝観音沼発 8.50＝大峠 9.10＝1570m地点 9.30＝大峠 11.50＝観音沼

流石山是那須の裏側にあるたおやかな山、夏は沢登りの井戸沢を詰めてニッコウキスゲが楽しめる山行ができる。プレ山行として栂海新道に地形的に似た場所を選定した。4月9日 前夜発にて甲子トンネルを抜けて観音沼の駐車場にて仮眠するも季節外れの寒気の影響で深夜から降雪。翌朝は10cmの降雪で暖気続きで雪のなかった登山道も白く、木々の幹にも雪がついた状態で雪山らしくなっていた。やっぱり雪山はいいなあと思いながら林道終点まで新雪の中を歩く、1350m付近の谷筋でようやく固く締まった残雪が出てきた。キックステップで登る。赤テープが見つからず何回か登山道を外すが、その度にハッシーから「行き過ぎない？」「どっちに行っても大丈夫でしょう」「赤布がそっちに見えるよ」などの的確なアドバイスが有り随分と助かる。程なくしてぐっちの的確なルーファイで大峠に着く。

午後からの好天を期待したが風雪が収まらないので、大峠から50mほど標高を上げた1570m付近で終了。帰りはあややが林道をショートカットしようとして道を外し沢筋に行き過ぎたときには、ぐっちから「早く気がついてよかったよ、こんなこともあるよね」とポジティブな発言に救われるし、ハッシーは「こっちに上がればいいね」と先を歩いてくれた。これで二人と山行ができ不安なく栂海新道に行けそう。ノーマルタイヤで帰りが心配されたが、観音沼は晴れていて雪もシャーベットになっていたため問題なく走行。途中甲子温泉で汗を流し帰京。



大峠にて

### ◆5/2 桐海新道初日

○ルート、時間 前日 11.05＝バスタ新宿発 6.00＝桐池着 8.00＝ゴンドラ発  
9.00＝ロープウェイ終点 12.10＝白馬大池 14.40＝小蓮華岳 16.30＝2600m地点幕営  
ぐっちが平日の5月2日が休めるというので、1日夜発ができた。混雑も避けられるので助かる。結果的にこの選択が吉と出る。終点桐池で下車した客は我々のパーティー3名だけ、ゴンドラに一番手で乗り込んだ。板を担いだ客がほとんどいない。今年は雪融けが早く、さらに蓮華温泉は林道に雪がないため休館に追い込まれたので雪倉方面へのスキーヤーはいないからだ。好天の中、本日最大の急登でハッシーの登りはゆっくり。数日前からのお尻付近にできた粉瘤のため無理をしないで歩く。「この山行をキャンセルせずありがとう！」風は強いが視界は槍や妙高も見渡せて最高。



雪の少ない小蓮華に向かう

乗鞍岳手前の急斜面で風は落ち着いてくる。白馬乗鞍も視界があるので道に迷うような心配はなく白馬大池小屋着。昨年のGWには小屋の屋根に腰を下ろして休憩できたのだが、今年は庇が目線の先にある。昨年より150cmほど積雪が少ない。船越の頭の手前からは夏道が出ていて、右斜面は積雪すらない。金山沢側の稜線付近で2人組が幕営準備をしていた。雪と岩のミックスも氷結している部分が出てきたので、一般山行で初使用のペツルレオパードLLFを使用してみる。両方で330gという軽さは魅力。アルミ製だし前後の金属を繋いでいる部分は紐なので、なるべく岩場は使いたくない。脱着を繰り返す前にアイゼンが靴から何回となく外れ、パーティーに迷惑を掛ける。装着のコツをつかんだら外れることはなくなった。真っ白でない雪倉岳を眺めながら進む。小蓮華岳から三国境間はさすがに風が強い。三国境から100mほど降りると風は止んだ。16時を過ぎ、雪倉避難小屋まではまだ時間がかかるので、2600m地点で適当な幕営地を見つけ初日終了。このあたりは幕営適地多数。近くでソロテントを見かける。富山湾の明かりが見え、風もなく、赤銅色の満月という快適な一夜。おまけに雷鳥の姿は見えないが「ガー、ゲー」と鳴く雷鳥の声を夜と朝に聞くことができた。ハッシーは体調を考慮して、ぐっちはハッシーに遠慮してアルコールを持参していない。

### ◆5/3 桐海新道2日目

○ルート 3.30＝起床 5.00＝出発 6.10＝雪倉避難小屋 7.15＝雪倉岳  
10.30＝朝日岳鞍部(朝日小屋分岐) 13.30＝朝日岳 14.40＝長桐山幕営  
3.30起床、5.00出発。これから3日間とも同じ時間の起床と出発。ここから雪倉岳あたりまでは山スキーヤーが多いところだが、今回は皆無。精神衛生上平穏に山行ができる。鉢形山は夏道通りに巻く、巻道までは夏道。所々雪庇の崩壊に注意しながら進む。雪のない雪倉避難小屋に着く。快晴無風。雪倉岳からの東斜面は山スキー天国の斜面だが誰も滑る人はいない。雪倉岳の下り2400m地点で稜線から外れてしまう。右の支尾根に入る夏道を見過ごし引き返す。昨日のソロ登山者の踏み跡をトレースしてしまった。赤男山の巻道は夏道と残雪のルーファイが難しく苦労する。20mほどの雪面のトラバースでは、ハッシーは一度下って登り返しを選択したが、あややは強引にストックとツボ足キックステップで突っ込み7mほど滑落。まあ下部は傾斜がゆるいので止まることは想像できたが、滑ってる間は爪で雪を掻こうとするし肘で雪面を押し付けたりするが止まりもせず、逆に体を傷

つけるだけだった。手袋は必ずはめるべきだ。ぐつちはしっかりとアイゼンを付けてトラバースし事なきを得た。朝日岳の鞍部までのトラバースは想定以上に時間がかかった。



雪倉に向かう夏道が目立つ、背後に白馬岳



この山行最もきつい朝日岳の登り

雪倉岳から標高で600mくだり、朝日岳まで400m登り返す。無風で雲ひとつない中、背中には太陽の日差しがきつく、木陰を見つけては休むことを繰り返しながら朝日の山頂へ。劔岳、立山、白山の山が見渡せる。とにかく暑い。ここからはスキーなら快適に滑れる斜面が続く。朝日での登りで体力を使い果たしたメンバーは傾斜のゆるい長褥山の登りも堪える。麓から登ってくる新緑がとてもきれいで初夏を感じる。二日目に幕営予定していた黒岩平はおろかアヤマ平に行く気力はなく、長褥山山頂付近で二日目終了。昨日より富山湾は大きく見え、少し日本海に近づくことが実感できた。このあたりも幕営地を探すのは容易。

#### ◆5/4 柵海新道3日目

○ルート 5.00＝出発 6.50＝黒岩山 8.30＝サワガニ山 10.40＝柵海山荘  
14.20＝下駒山幕営

3日目も快晴無風。たっぷり雪のある斜面。黒岩平付近は夏道からやや東側を歩く。日が出てくると暑いのでシャツ一枚となるが暑い。風が欲しい！雲がほしい。進行方向左に初雪山が見えるが、縦走路と離れているのに初雪山を超えて犬ヶ岳に至るような錯覚に陥る。近くにあるピークで小休止と思ったらこれが黒岩山だった。初雪山は縦走路とかなり外れている。振り返ると鳥海山の祓川あたりの風景に似ている。ここから犬ヶ岳までは夏道と残雪の上を交互に進む。標高差が50mもないのでプロムナードコースかと思いきや20m～50mほどのアップダウンを何回も繰り返す。夏道と残雪が交互に出てくる。黒岩山から先は山スキーはしんどいだろうなと思う。3月に登った昼間山もよく見える。



黒岩山から長楯山を振り返る

サワガニ山からは雪のなくなった地面からイワカガミに似たイワウチワを見かける。さらにカタクリの花畑が白鳥山の先まで延々と続く。登山道の脇に咲いているだけでなく、登山道にも咲いているので踏みつけないように進む。それにしてもこんなに楽しい登山道を開拓してくださった「さわがに山岳会」には感謝です。



初雪山は稜線から外れていた



左手に楯海山荘 アップダウンがきつい

犬ヶ岳の手前の小ピークを何回か超えるのはきつい。さらに一箇所は稜線の登山道が崩壊しているので赤テープのついているシャクナゲの藪こぎを強いられる。傾斜のある残雪部はアイゼンを使うが、結局ピッケルを使用する箇所は今回の山行ではなかった。犬ヶ岳には楯海山荘がある。ようやく日陰にありつくことができ、時折吹く風が気持ち良い。

時間は午前中だが体力の消耗は激しい。ここで行動終了とすることも頭をよぎるが、明後日は天候が思わしくない。明日中には下山したいので先に行きたい。かと言って白鳥山までこのペースで4時間以上かかる。日の当たる山頂で休んでいた元気なぐちが「行けるところまで行けばいいじゃん」との前向きな発言に助けられ行動開始。途中のいくつかある小ピークには雪があり幕営できそうなので時間と体力と相談しながら幕営地を探すことにする。夏道を何回となく見過ごす度に、ハッシーから「夏道あるよ」と何度となく助け舟が出る。雪が割れているので的確な助言ありがたい。相変わらずの数十mのアップダウンが続く。あややは白鳥山を何回も犬ヶ岳と発言。ヘトヘト。標高

は1600m位なので、アップダウンの激しい丹沢の縦走路を歩いているような気がする。菊石山への登りで、出発して20分も経たないうちにハッシーから休憩を取りたいとの発言が飛び出す。熱中症を疑う。あややも熱中症気味だ。持っている水を残りを気にすることなく飲む。今日は何十回雪を食べたことだろう。かき氷のシロップを持ってくるのだった。雪のたっぷり残っている下齧ヶ岳で行動打ち切り。

快晴無風。テントを張るが、中に入らずにトレンチを掘って水作りを外で始める。作った水の半分は飲み水に変わっていく。水を作りながら各自1リットル近く水分補給。夕食も外でできるほど暖かく快適な夕飯だった。幸せ！酒はないけどね！夕日は富山湾に落ちた。糸魚川の明かりが小さく見えた。

#### ◆5/5 杣海新道最終日

○ルート 5.00=出発 6.30=白鳥山 7.50=シキ割 10.40=尻高山 13.00=親不知

はあ、今日も快晴無風。雪は朝から柔らかい。ガスの使用量は600cc程度で3泊を乗り切った。今日も夏道と残雪を交互に歩く。白鳥山は山頂の左右に残雪があり、白い翼を広げる白鳥のようだ。雪に倒された木の枝が勢いよく跳ね上がるのでうかつに枝を踏めない。標高差100mほど下ると残雪も谷筋にあるだけになる。コブシ、ミツバツツジ、マンサクなど春の花が一斉に咲いている。登山道は雪融けの水路のようになっている。シキ割は枝沢が錯綜するので道がわかりにくく赤テープを見落として行き過ぎてしまう。この付近はブナの新緑が美しい。目に染みる。この風景に、ぐっちはチェアリングが良いといい、あややはハンモックが楽しそうだという。白鳥山だけでもこの時期登山するのも楽しいと思う。白鳥山に登る地元の方とすれ違う。久しぶりに登山者と出会った。



シキ割付近、このあたり新緑がきれい

坂田峠を超える。山行は最終盤に入る。木陰があるので暑さはしのげる。あややはテルモスにお湯が入っているので仕方なくそれを飲んでみると、ぐっちからテルモスに雪を融かした冷水のサービスが嬉しかった。ここからはたおやかなプロムナードが続く。登山道は踏まれていない落ち葉のラッセルで季節感が狂う。尻高山を過ぎると左手に白鳥山、右手に日本海が大きく見えてくる。あややは「海が見える」ハッシーは「あの集落はどこだ」といい、ぐっちは「コシアブラがあるね」と見えてるものが違うが、メンバー全員日本海にダイブ！と思っていることは一致している。海風が入るからか多少涼しい。送電線の下を通るとホテル親不知が見えた。荷をおろし、ホテル脇の遊歩道から日本海に出て山行終了。ラグビーボールのような石が埋め尽くす砂浜のない日本海に辿り着いた。海水は冷たくダイブは諦め、ひざ上まで海水に浸かって山行終了。



やっとこさ着きました、親不知海岸

ホテル親不知は登山者の入浴はお断りとのことで、タクシーにて親不知交流センターまるたん坊で4日間の汗を流そうとしたところ、能登半島を震源とする地震に遭遇した。糸魚川は震度4程度だった。400mほど離れた親不知ピアパークで食事、地震でかなりダイヤが乱れた北陸新幹線で帰京。

メンバーと天候に恵まれて昨年敗退の栂海新道を完歩でき楽しい山行でした。ハッシー、ぐっちお付き合いいただきありがとうございました。また来年のGWも残雪の山を歩きましょうね。黒岩山からは板履いての縦走は大変そうだがたっぷり雪のある時期に再度訪れても楽しそう。那須流石山のI崎さん、栂海のH口さん下山連絡担当ありがとうございました。